

第1学年 社会科学習指導案

日 時 平成30年10月11日(木)5校時
学 級 1年1組 男子13名 女子12名 計25名
場 所 1年1組教室
授業者 教諭 平田 隆裕

1 単元名 第3章世界の諸地域 3節アフリカ州 (東京書籍・新しい社会地理)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、『中学校指導要領』地理的分野の内容(1)世界の様々な地域ウ「世界の諸地域」(ウ)アフリカにあたる。「世界の諸地域」については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地理的特色を理解させることを目的としている。主題については、州の地理的特色が明確となり、かつ、我が国の国土認識を深める上で効果的であるという観点から設定することとされている。ここでは、主題をモノカルチャー経済下のアフリカ諸国の人々の生活と設定し、追究させる。アフリカでは、第一次産品にたよる脆弱なモノカルチャー経済、豊富な鉱産資源の輸出による発展と貧富の格差などの特徴が見られる。こうしたアフリカの現状とそれにもなう生活の特徴、そこから発生する諸問題、さらにそれに対しての対策として、先進国をはじめとした世界の国々、とりわけ日本との関係からアフリカの地域的特色を理解するよう指導していく。

(2) 生徒観

生徒たちは、全体的に明るく、授業への反応は良く、真剣に集中して取り組んでいる。社会科学についての興味・関心や知識・理解能力に多少の個人差はあるものの、しっかりと耳を傾け、一生懸命に活動している。

資料の活用に関しては、地図や資料集を用いながら授業を進めている。ほとんどの生徒は資料を読み取ることができるものの、読み取ったことを比較したり、関連付けたりする力、自分なりの見方や考え方を交流する力は不足している。このことは、思考力・判断力・表現力の育成が不十分であることが裏付けられ、因果関係を追究したり、既習事項や社会的事象、条件とを関連付けする活用型の学習活動や探究型の学習活動の経験が不足しているものと推察する。

本単元の「アフリカ」については、かつて植民地であり、ヨーロッパの国々が引いた境界線が今も国境として使用されていることやサヘルの生活と環境については学習済みであるが、「アフリカ」に関する知識は断片的であり、関心もあまり高くない生徒が多い。

(3) 指導観

小学校では、日本とつながりの深い国々について学習しているが、本小単元のアフリカ州となると、生徒にはあまりなじみがなく、予備的な知識も十分とは言えない。アフリカは生徒達にとって遠い存在なので、身近にあるアフリカの物産やスポーツなどの話題も交えた授業を展開していきたい。本時の指導では、生徒の意欲を引き出すためにも身近で関わりの深いチョコレートの原料であるカカオ豆を取り上げ、「モノカルチャー経済下の生活」について理解させることをねらいとしている。輸出用の作物は、天候や景気によって価格が大きく変動し、収入が安定しにくいことや、先進諸国に輸出される商品作物の栽培が中心のアフリカ諸国は、主食となる穀物類の栽培に手が回らず、自給率が下がっていることなどを深く追究させたい。

(ユニバーサルデザインの視点から)

- ① アフリカの実情について、グラフ資料やニュース、新聞などから適切な資料内容を厳選し、生徒がより具体的に学習課題について分かりやすく考えられるようにする。
- ② 複数の資料を比較・関連・統合するために、発問や学習シートの工夫をする。
- ③ 自分の考えを表現するにあたり、学習シートへのまとめ方やペア学習など学習形態の工夫をする。
- ④ 単元全体の見通しを持たせ、1 単位時間や単元全体の振り返りを行うために、自己評価表を活用する。

これらの重点に指導することで、生徒の学習意欲や課題意識が高まり、思考力・判断力・表現力がついていくと思われる。

3 単元の見通し

- ・アフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、アフリカの地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究している。【社会的事象への関心・意欲・態度】
- ・アフリカの地域的特色をアフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。【社会的な思考・判断・表現】
- ・適切に選択したアフリカに関する情報を基に、地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめたりできる。【資料活用の技能】
- ・アフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、地域的特色を理解することができる。【社会的事象についての知識・理解】

4 単元の指導計画（全4時間）

- 1 アフリカ州をながめて 1時間
 - ・アフリカの自然、歴史と文化、産業の特色について、雨温図や分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。
- 2 アフリカの産業と新たな開発 1時間
 - ・茶やコーヒー、希少金属(レアメタル)の生産など、日本人の生活と関わりが深いアフリカの産業に対する関心をもつ。
 - ・アフリカのプランテーション農業やモノカルチャー経済の実態について、主題図や貿易統計から読み取る。
- 3 カカオ農園から見るアフリカ産業の課題 1時間（本時3／4）
 - ・カカオ農園の厳しい現状を理解し、その背景が先進国の都合による自由貿易などにあることに気付く。
 - ・カカオ農園で子どもが働かされている理由を資料から読み取ることができる。
- 4 アフリカの課題と展望 1時間
 - ・都市化と人口増加、環境問題、貧富の格差など、アフリカの課題について理解する。
 - ・地域の統合や自立への交流を通して、問題解決に取り組んでいることに気付く。

5 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象に についての知識・理解
・アフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、アフリカの地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究して、とらえようとする。	・アフリカの地域的特色をアフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現しようとしている。	・アフリカの地域的特色に関する様々な資料を収集し、収集した資料からアフリカの地域的特色について有用な情報を適切に選択している。 ・適切に選択したアフリカに関する情報を基に、地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	・アフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

カカオの生産や輸出に関わる資料をもとに、カカオ農園で子どもが働く理由とその背景を追究することができる。【資料活用の技能】

(2) 本時の評価規準

評 価 規 準	B 概ね満足できる	C 支援を要する生徒への手立て
カカオ農園で子どもが働く理由を、資料を使って貧困状態、農園主の立場、先進国の都合、アフリカ諸国の立場など多面的に追究することができる。 【資料活用の技能】	カカオ農園で子どもが働く理由を、資料を使って貧困状態、農園主の立場を追究することができる。	追究することができない → 貧困状態や農園主の立場の資料から分かることを考える。

(3) 本時の構想

本時の授業では、視覚教材を活用しながら学習課題を設定し、資料活用しながら課題解決を図っていきたい。また、アフリカの働かされている子どもたちを助けるために、私たちができる方法は何かを考えさせ、フェアトレードの理解につなげていきたい。

(4) 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点 ☆評価	UD的配慮	主な資料
導入 7分	<p>1 前時の学習の想起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの植民化とプランテーション ・モノカルチャー経済 <p>2 学習課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カカオ農園」で働く子供達の映像を見て、感想を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した内容を写真や資料を見ながら想起させる。 ・映像を視聴させ、課題につなげさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料の提示 ・編集映像の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・茶のプランテーション写真 ・ガーナの輸出品の割合円グラフ ・カカオ豆からチョコレートができるまでの写真 ・児童労働の映像
なぜ、カカオ農園で子どもたちは働いているのだろうか。				
展開 30分	<p>3 予想と検証の視点の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活していくため。 ・もうけを増やすため。 <p>○カカオ農園主の儲けや収入額 ○子どもが働かなければならない現状（アフリカの貧困）</p> <p>4 課題の検証</p> <p>(1) 検証への一人学びを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの貧困の割合がとても高く、生活するためには子どもも働かなければならない。 ・生産者の収入が低いから、生産費を抑えるために子どもを働かせている。 <p>(2) 検証した結果を交流し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予想の視点を聞いたり、予想を分類したりして、検証の視点をもたせる。 ・自力解決の時間を確保し、検証資料から読み取ったことをもとにその理由を考えさせ、学習シートに書かせる。 ・カカオ農園主の生活も厳しいことと、その原因が先進国にあることに気付かせる。 <p>☆カカオ農園で子どもが働く理由、働かなければならない理由を、資料を使って貧困状態、農園主の立場、先進国の都合、アフリカ諸国の立場など多面的に追究することができるか。</p> <p>【資料活用の技能】 (記述の分析・観察・発表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びを保障するために資料提示の仕方や学習活動の時間配分を工夫 ・学習プリントの活用 ・机間巡視での声がけ 	<p>資料1① ハンガーマップ</p> <p>資料1② アフリカで1日1ドル未満で生活する人の割合円グラフ</p> <p>資料2 日本で販売される板チョコ1枚(100円)の内訳</p>
終末 13分	<p>5 学習のまとめ</p> <p>(1) 本時の課題のまとめを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>アフリカのカカオ農園で子どもたちが働いているのは、飢餓や貧困率が高く、自分が働かなければ生きていけないこと、農園主の収入も少なく、輸入国の取り分が多すぎて生産国の利益がほとんどないことで、少しでも儲けを得るためには子どもを雇わなければならないことであると考えられる。</p> </div> <p>(2) 「アフリカの働かされている子どもたちを助けるために私たちができる方法は何か。」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助のための募金活動。 ・チョコレートを買うこと。 <p>(3) 今日の振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シートにポイントをおさえてまとめさせる。 ・グループでどんなことができるかを考えさせ、全体で交流させる。 ・フェアトレード(公正な取引)について理解させる。 ・自己評価カードに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントの活用 ・自己評価カード(単元計画表)の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレードマーク ・フェアトレードの説明映像
6	次時の予告			

